

2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立氷上特別支援学校

活動の実際（単元名）

県立氷上高等学校との交流及び共同学習
フードデザイン実習「テーマ設定と調理実習」

指導目標

- (1) 自分の考えを他者に伝えるときにも他者の意見も受け入れ、互いに協力し、調理を進める。[課題対応能力]
- (2) コミュニケーションをとりながら、テーマに応じた調理操作を行う。[課題対応能力]
- (3) 氷上高校生徒との交流を通して、社会性を身につける。[キャリアプランニング能力]
- (4) 交流を深めてお互いを理解する機会とする。[人間関係・社会形成能力]

生徒の実態

他校生や知らない大人の前では、緊張して喋ることを控えたり、自信を無くしたりすることがある。また、個々はいろいろな面で努力しているが、他生徒と協力して何かを成し遂げることは苦手である。

事前学習

家庭科の授業の中で、メニューやレシピ、注意事項の確認を行い、調理実習の見通しを持たせた。また、交流内容や日程、持ち物の確認をし、該当の生徒には個別で挨拶の練習を行った。

学習活動（具体的な取組）

- ・調理実習の手順の説明を聞く。
- ・グループに分かれる。
- ・班ごとに調理を始める。
- ・ケーキ寿司と吸い物を分担して調理する。
- ・ケーキ寿司のデコレーションについて話し合いながらデコレーションをしていく。
- ・盛り付けをする。
- ・試食をする。
- ・使用した器具、調理台の後片付けをする。
- ・本日の振り返りをする。
- ・評価表を記入し、感想を書いて提出する。

支援と留意点

- ・調理実習の手順が理解できているか確認する。
- ・事前に編成したグループのどこに入るか伝える。
- ・正しい手順で安全に作業が行われているか確認する。
- ・自分の意見を伝えることができるよう支援する。
- ・協力して取り組んでいるか確認する。
- ・試食は班員がそろっていることを確認する。
- ・片付けの指示をする。
- ・協力することの大切さを確認する。

評価

- ・きちんと説明を聞き、授業に対して積極的に取り組む姿勢がみられた。
- ・受け身ではあるが、協力して実習に取り組むことができた。
- ・指示された内容で、わからないことを質問することができた。
- ・手順を考えるまでには至らなかったが、指示された作業に集中して取り組めた。
- ・実習の内容について、振り返りができた。

活動の様子



ケーキ寿司
酢を入れて、酢飯を切っているところ



お吸い物
鶏肉のささみをカットしているところ

事後学習

ふりかえりシートで、「自分のふりかえり」、「班で話し合ったこと」、「班の話し合いで自分ができたこと・できなかったこと」、「全体の感想」を記入した。後日、氷上高校の担当教諭に提出した。本校でも、交流及び共同学習アンケートを実施した。

成果と課題

参加した生徒が普段とは違う環境の中、「上手に作れた」「優しく話しかけてくれた」「楽しかった」など肯定的な意見ばかりで、経験の幅を広げることができたのが成果である。当日に不参加の生徒が多く、他校の同級生と関わりたくない生徒の対応や取り組むことが困難な生徒に対しての合理的配慮をどのように実施していくのが課題である。